

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	論理国語 大修館		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
履修上の注意点	授業：論理的な文章を読解することで実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、国語に関する知識・技能の定着を目指す。また、自己の考えたことを作文等に表現することで論理的に思考・判断し表現する力の発達を目指す。 提出物・討議等：主体的に学びに向かう態度の育成を目指す。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題			○	
	ノート提出			○	
	課題考査	○	○		
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	【第Ⅰ部】 1 世界・言葉・私 2 共同体のいま 3 科学の可能性 4 日本語の多様性 5 思考の枠組み	世界を広げる「批評」の言葉 家族化するペット 自己をモデル化する知能 敬語への自覚、他者への自覚 スキーマと記憶	26 (4) (5) (6) (5) (6)	筆者の主張をとらえる。 ・これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。 ・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。 ・科学技術の進歩と人間の本質について、考えを深める。 ・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。 ・記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げる。	知：定期考査 課題考査 思：定期考査 課題考査 主：提出物
2	【第Ⅰ部】 6 芸術と文化 7 科学の可能性 8 思考の枠組み 9 社会の原点 聞く 書く	余白の美学 人工知能の可能性と罪 絵を見る技術 社会的実在としての言語・法・貨幣 小論文	32 (6) (6) (7) (6) (7)	筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・「余白」についての筆者の主張をふまえて、「美」について考える。 ・論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。 ・絵を見る方法を的確に読み取り、ものの見方を広げる。 ・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。 ・題材の文章について、自分の意見を書く。	知：定期考査 課題考査 思：定期考査 課題考査 主：提出物
3	10 社会の原点	分かち合う社会 心に「海」を持って	12 (7) (5)	・食べ物を分かち合う人類特有の習慣の持つ意味について、論理の展開を的確にとらえる。 ・筆者の主張をふまえ、「心に海を持つ」ことの意味について、現代社会や自分の体験に引き付けて考える。	知：定期考査 思：定期考査 提出課題 主：提出物

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	古典探究	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	精選古典探究 古文編・漢文編 東京書籍		
科目目標	「知識及び技能」 ・生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。 「思考力、判断力、表現力等」 ・論理的に考える力や、共感・想像力を伸ばし、古典を通して伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を育てる。 「学びにむかう力、人間性」 ・古典について関心を深め、作品や文章を自分自身の経験に結び付け、考えを深める。				
履修上の注意点	・精選古典単語300PLUSの持参 ・『体系古典文法』の持参				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題			○	
	小テスト	○			
	課題考査	○	○		
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	説話 1 歌物語 随筆 1 日記 1	『宇治拾遺物語』 -小野篁、広才のこと- 『伊勢物語』 - 初冠 - 『枕草子』 - すさまじきもの - - 中納言参り給ひて - 『更級日記』 -門出 -	2 6 (4) (6) (5) (5) (6)	- 古文に慣れるとともに、説話の特徴を知り、話の展開や面白さを学ぶ。 - 敬語について学ぶ。 - 作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解するとともに、和歌の表現技法などを学ぶ。 - 現代でも有名な『枕草子』を学び先人のものの見方や感じ方を知るとともに、随筆の面白さを学ぶ。 - 日記というジャンルに触れ、作者の考え方や感じ方を学ぶ。 - 当時の行事やしきたり、出来事を知り、句法について学ぶ。 - 女流作家について学ぶ。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物
2	随筆 2 小話 史記 作り物 語 1	『徒然草』 - 世に従はん人は - 『十八史略』 -先従隗始 - 『韓非子』 -不死之薬 - 『史記』 -四面楚歌- 『源氏物語』 -光源氏の誕生-	3 2 (6) (6) (6) (5) (9)	- 作者の主張を論理展開的に留意して理解し、助動詞について学ぶ。 - 小話の展開の面白さを味わいながら、漢文の基礎知識を学ぶ。 - 漢文の文章の構成や句法、表現の特色などを学び、ものの見方や感じ方、作者の考え方を理解する。 『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考え、人間のあり方について理解する。 - 故事成語の成り立ちを理解し、考えを深める。 - 現代でも有名な『源氏物語』に触れ、敬語を学ぶとともに、作り物語の面白さを学ぶ。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物
3	作り物 語 1 近世小 説 1	『源氏物語』 -若紫- 『世間胸算用』 -小判は寝姿の夢-	1 2 (7) (5)	- 文章の内容を的確に理解し、登場人物の心情や行動を確認する。 - 敬語の理解を深めるとともに、主要な登場人物の人間関係について理解する。 『源氏物語』を通して、文法、敬語、先人のものの見方や考え方、生活環境などを学ぶ。 - 近世独特の文章表現を読み味わうとともに、これまでの中古の作品との比較を行う。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物

令和6年度 シラバス

教科名		地理歴史	科目名	地理総合	履修学年	第2学年
単位数		2単位	使用教材	教科書 帝国書院「高等学校新地理総合」 二宮書店「詳解現代地図最新版」 副教材 帝国書院「新詳地理資料 COMPLETE 2024」 帝国書院「高等学校 新地理総合ノート」		
科目目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。				
履修上の注意点		①学習の基本は授業である。主体的に取り組むこと。 ②授業に必要な教科書・資料集・ノート類を忘れず持参すること。 ③課題やノート・レポート等の提出を怠らないこと。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査		○	○		
	ワークシート・ノート			○	○	
	課題・小テスト		○		○	
	発表			○	○	
	各観点の割合		40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
一学期	第1部 地図でとらえる現代世界	第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	1 3 1 3	○ 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ○ 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ○ 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ワークシート・ノート 課題・発表
		第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活	5 7 4	○ 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ○ 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
二学期	第2部 国際理解と国際協力	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	4 6 1 3 4 4 3 4	○ 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ○ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ○ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ワークシート・ノート 課題・発表

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
三 学 期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 2 節 地震・津波と防災 3 節 火山災害と防災 4 節 気象災害と防災 5 節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 生活圏の調査と地域の展望	1 3 3 3 3 4	○ 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ○ 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ○ 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ○ 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ○ 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ノート・ワークシート 課題・発表

令和 6 年度 シラバス

教科名		公 民	科目名	公 共	履修学年	第 2 学年
単位数		2 単位	使用教材	教科書 帝国書院「高等学校 公共」 副教材 帝国書院「高等学校 公共ノート」 「ライブ 2024 公共、世の中の動きに強くなる」		
科目目標		人間と社会のあり方についての見方・考え方を養い、課題を追究し解決する活動を通して、広い視野に立ち国際社会で主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。 (1) 現代社会の課題を適切に捉える力を養う。課題を考察・選択・判断するための概念や理論を理解し、情報を効果的に選択しまとめる技能を身に付ける。 (2) 現代社会の課題の解決に向けて、選択・判断する力を養い、公共的な空間における基本的原理を活用し、多面的に考察し公正に判断できる力を養い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) より良い社会の実現を視野に、現代社会の課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としてのあり方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				
履修上の注意点		①学習の基本は授業である。学習に主体的に取り組むこと。 ②授業に必要な教科書・資料集・ノート類を忘れず持参すること。 ③課題やノート・レポート等の提出すること。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査		○	○		
	ワークシート・ノート			○	○	
	課題・レポート (小テスト含む)				○	
	班別協議・発表		○	○	○	
	各観点の割合		4 0 %	3 0 %	3 0 %	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
一学期	第1部 私たちが つくる社会	第1章 社会の中の私たち 第1節 青年期と社会参画	6	○ 青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結びつく、自らのキャリア形成について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	3	○ 私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考え方などへの理解に基づき、相互の立場を理解しあう社会的な存在であることについて、自分の意見を表現することを通じて自らの価値観、それらを形成する背景や要因について理解させる。	
		第2章 思想から学べきもの 第1節 倫理的な見方・考え方	5	○ 先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、義務を重視する考え方などについて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	9	○ 公共的な基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な場面に生じる課題を探究することの大切さを理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
二学期	第2部 社会のしくみ と諸課題	第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加	7	○ 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、自らの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高めさせる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加	7	○ さまざまな意見や利害を調整する政治の意義や統治機構の仕組みの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 国際政治の動向と平和の追求	8	○ 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、領土問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、自らの意見や主張を表現することを通じて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3章 私たちと経済 第1節 市場経済のしくみ	8	○ 市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政及び租税の役割について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
三学期		第2節 豊かな社会の実現	7	○ 変化する産業構造と労働のあり方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸問題について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3節 国際経済の動向と格差の是正	6	○ グローバル化の進展により経済活動が世界的な規模で行われていることに対する正確な理解に基づき、貧困や格差のない国際社会の形成に向けた取組みについて自分の意見を表現することを通じて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
	第3部 持続可能な社会 の実現に向けて	課題探究学習の手引き	4	○ 第1部・第2部の学習を振り返りながら、各領域を横断する課題を探究する単元であり、「公共」のまとめとして、これまでの学習の成果を活用することができるよう時間配分を行う。	思：班別協議・発表 主：レポート(成果物)

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	2（文Ⅰ・理）
単位数	4	使用教材	高等学校 数学Ⅱ（数研出版） クリアー 数学Ⅱ+B（数研出版）		
科目目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ② 適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
履修上の注意点	予習を行い授業に参加すること。 授業内で実施する小テストに意欲的に取り組むこと。 提出物は期限を守り提出すること。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題	○	○	○	
	Web課題	○		○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 式と証明	第1節 式と計算	10	3次の乗法公式、二項定理や因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。また、整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をすることができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第2節 等式・不等式の証明	8	等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質、絶対値の性質、相加平均と相乗平均の関係などを用いて証明することができるようにする。	
	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解	10	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができるようにする。また、2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解し、それらを活用できるようにする。	
		第2節 高次方程式	9	因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができるようにする。	
	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線	11	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。	
		第2節 円	10	座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。	
2	第4章 三角関数	第1節 三角関数	13	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方、扇形の面積の求め方などについて理解する。また、三角関数について、相互関係などの基本的な性質や、周期性をもつなどのグラフの特徴について理解する。さらに、三角関数を用いた方程式・不等式の解が求められることができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第2節 加法定理	11	三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くことができるようにする。さらに、三角関数の合成について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする	
	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数	8	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。	
		第2節 対数関数	10	対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができるようにする。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。	

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
	第6章 微分法と 積分法	第1節 微分係数と導関数	9	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができるようにする。	
3		第2節 関数の値の変化	10	導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができるようにする。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第3節 積分法	12	不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができるようにする。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。	

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学 B	履修学年	2（理型）
単位数	1	使用教材	高等学校 数学 B（数研出版） クリアー 数学 B（数研出版）		
科目目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ① 数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数式化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする ② 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力やそれらを活用して問題を解決する力を養う。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
履修上の注意点	予習動画を配信するため、必ず視聴してから授業に参加すること。 授業内で実施する小テストに意欲的に取り組むこと。 提出物は期限を守り提出すること。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	考査課題		○	○	
	平常課題			○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単 元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	8 2	数列の概念とその一般項の表し方について学習し、基本的な数列である等差数列と等比数列を理解する。また、それらの数列の項の和を求められるようにする。 和の記号 Σ の表し方や性質を学習し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学に取り組む態度を評価する。
2		第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	5 10	和の記号 Σ の表し方や性質を学習し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
3	第2章 統計的な 推測	第1節 確率分布	10	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	2（理型）
単位数	1	使用教材	高等学校 数学C（数研出版） クリアー 数学C（数研出版）		
科目目標	ベクトルと複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 ① ベクトル・複素数平面の基本的な概念や原理・法則を学習する。また、計算と図形的な解釈の両方に触れ、様々な手法を用いて対象を考察する思考力を養う。 ② 適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
履修上の注意点	予習動画を配信するため、必ず視聴してから授業に参加すること。 授業内で実施する小テストに意欲的に取り組むこと。 提出物は期限を守り提出すること。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	考査課題		○	○	
	平常課題			○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 平面上の ベクトル	第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	6 7	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形がベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
2	第2章 空間のベ クトル		1 3	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
3	第3章 複素数平 面		9	複素数平面の概念について学習し、点の移動や回転など複素数の計算がもつ性質を視覚的に捉えることができるようにする。また、極形式を学習することを通して、複素数の計算・考察をより深くできるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	物理	履修学年	第 2 学年
単位数	3単位	使用教材	教科書 数研出版 物理 問題集 数研出版 リード Light ノート物理基礎 リード Light ノート物理 リード α		
科目目標	・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
履修上の注意点	・持参物：教科書、問題集、授業ノート ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・物理量の単位や測定値の有効数字に注意をして計算をする。 ・実験をした内容と物理の基本原則・法則を関連づけて理解する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	課題（問題集）			○	
	実験および 実験レポート		○	○	
	小テスト			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	第1編 力と運動	第1章 平面内の運動 1.平面運動の速度・加速度 2.落体の運動 第2章 剛体 1.剛体にはたらく力のつりあい 2.剛体にはたらく力の合力と重心 第3章 運動量の保存 1.運動量と力積 2.運動量保存則 3.反発係数	39 (15) (24)	- 放物運動を定量的に理解させる。 - 空気中を落下する物体には、速度に応じた空気抵抗がはたらくことを理解させる。 - 剛体にはたらく力の効果、剛体にはたらく力のつりあいを理解させる。 - 剛体にはたらく力の合力、重心について理解させる。また、剛体の傾く条件と転倒する条件を理解させる。 - 運動量と力積の関係を理解させる。 - 物体の衝突・分裂・結合について、運動量と力積の関係をを用いて運動量保存則が成りたつことを理解させる。 - 反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：課題（問題集） 実験 実験レポート 小テスト
2	第1編 力と運動	第4章 円運動と万有引力 1.等速円運動 2.慣性力 3.単振動 4.万有引力 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1.気体の法則 2.気体分子の運動 3.気体の状態変化	39 (15) (24)	- 等速円運動をする物体の加速度やはたらく力について理解させる。 - 慣性力・遠心力について理解させる。 - 等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。 - 万有引力と万有引力による位置エネルギーについて理解させる。 - ボイル・シャルルの法則から、理想気体の状態方程式が得られることを示す。 - 気体分子の運動を力学的に扱って、気体の圧力、気体分子の平均運動エネルギーを理解する。 - 熱現象をも含めたエネルギー保存則として熱力学第一法則を扱い、気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解させる。関連して、サイクルの熱効率や熱力学第二法則にも触れる。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：課題（問題集） 実験 実験レポート 小テスト
3	第2編 熱と気体	第3編 波 1.波の伝わり方 2.音の伝わり方 3.光	27	- 波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを確認し、波を表す要素についても確認する。 - 音波は波としての性質をもつことを理解する。 - ドップラー効果について理解する。 - 光の性質、およびレンズの公式の意味を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：課題（問題集） 実験 実験レポート 小テスト

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	生物	履修学年	第 2 学年
単位数	3	使用教材	教科書(生物・啓林館)、資料集(改訂版フォトサイエンス生物図録・数研出版)、ワーク(改訂版リードα生物基礎＋生物・数研出版)、プリント、タブレット		
科目目標	・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験やデータなどの分析を行い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
履修上の注意点	・持参物：教科書、プリント、資料集、タブレット ・配布プリントはノートやファイルに整理し管理すること。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート (問題集)			○	
	実験レポート・ 探究活動		○	○	
	小テスト・振り返り			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	1部 生物の進化	1章 生物の進化 1節 生命の起源 2節 生物界の変遷と地球環境の変化 2章 有性生殖と遺伝的多様性 1節 有性生殖 2節 遺伝子の多様な組み合わせ 3章 進化のしくみ 1節 突然変異と進化 2節 進化の要因	35 (6) (10) (10)	・生命の起源と生物進化の道筋について学び、生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。 ・減数分裂による遺伝子の分配と受精により、遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。 ・進化がどのように裏づけられ、そのしくみがどのように説明されているかを学ぶ。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
	1部 生物の進化 ／ 2部 生命現象と物質	4章 生物の系統 1節 生物の分類と系統 2節 3ドメイン説 3節 細菌ドメイン 4節 アーキアドメイン 5節 真核生物ドメイン 6節 人類の起源と進化 5章 生命と物質 1節 物質と細胞	(9) 35 (18)	・生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。 ・細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
2	2部 生命現象と物質	5章 生命と物質 2節 生命現象とタンパク質 6章 代謝 1節 代謝とエネルギー 2節 呼吸 3節 光合成	(17)	・光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
2	3部 遺伝情報の発現と発生	7章 遺伝現象と物質 1節 遺伝情報の複製 2節 遺伝子の発現 3節 遺伝子の発現調節	35 (12)	・DNA の構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
3	3部 遺伝情報の発現と発生	8章 発生と遺伝子の発現 1節 動物の配偶子形成と受精 2節 初期発生の過程 3節 発生と遺伝子の発現 9章 バイオテクノロジー 1節 遺伝子を扱った技術	(15) (8)	・配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学ぶとともに、細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。 ・バイオテクノロジーの原理とその応用を見ていく。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	化学基礎	履修学年	第2学年理型
単位数	3単位	使用教材	教科書 数研出版 新編化学基礎 副教材 第一学習社 新課程二訂版 スクエア最新図説化学 問題集 第一学習社 新課程版セミナー化学基礎+化学		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究する力を養う。				
履修上の注意点	・持参物：教科書、問題集、資料集（デジタル） ・配布プリントは整理し、管理すること。 ・実験をした内容と、化学の基本原理・法則を関連づけて理解する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	小テスト	○			
	単元テスト		○		
	定期考査	○		○	
	振り返り・ 実験レポート		○	○	
	問題集（提出物）			○	
	各観点の割合	30%	30%	40%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	物質の構成 原子の構造 と元素の周 期律 粒子の結合	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質のその成分 3 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表 第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合の結晶 4 金属結合と金属	計 35	・物質の成り立ちと混合物と純物質の考え方があることおよびその分離操作、さらには状態変化と熱運動の概念を理解・習得し、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身につける。 ・身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離・精製する実験などで基本操作を身に付ける。 ・物質の構成粒子としての原子の構造について理解・習得し、具体的な原子の表現についても規則性があること等の基本的な知識を身につける。 ・化学結合についての概念を基に、その多様性と物質の性質について考察する。	知: 定期考査 小テスト 思: 単元テスト 振り返り 実験レポート 主: 定期考査 振り返り 実験レポート 問題集(提出物)
	物質質量 溶液の濃度 化学反応式	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量		・原子量、分子量、式量およびアボガドロ数と物質質量との関係について正確に理解・習得し、モル質量、1mol の気体の体積、溶液の濃度等について正しく表現できる基本的な知識を身につける。 ・化学反応式の書き方について理解・習得し、その係数と物質質量、気体の体積等の関係について基本的な知識を身につける。 ・炭酸カルシウムと塩酸を反応させる実験や炭酸水素ナトリウムの熱分解の実験などを通し、化学反応式の係数の比と化学反応における物質質量の比の関係を理解する。	
2	酸と塩基 中和反応 中和滴定	第2編 物質の変化 第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基 2 水の電離、水溶液の pH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	計 35	・酸と塩基の定義や分類について理解・習得し、具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身につける。 ・水素イオン濃度と pH の関係、酸性・塩基性の定義について理解・習得する。 ・中和反応の量的関係について理解・習得し、塩の生成や中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬、滴定曲線についての基本的な知識を身につける。	知: 定期考査 小テスト 思: 単元テスト 振り返り 実験レポート 主: 定期考査 振り返り 実験レポート 問題集(提出物)
	酸化と還元 金属のイオン化傾向と電池	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用 —電池・金属の精錬—		・酸化還元反応は反応に関与する原子やイオンの酸化数の増減により説明できることを理解する。 ・代表的な酸化剤および還元剤のはたらきについて理解する。 ・金属のイオン化傾向から、金属によって陽イオンのなりやすさが異なることを理解する。 ・代表的な実用電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・酸化還元反応を利用した具体的事例を取り扱い、化学基礎で学んだ事柄が日常生活や科学技術と結びついていることを理解する。 ・代表的な酸化剤と還元剤の反応の実験などを通し、金属のイオン化傾向を比較する。	
3					

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	化学	履修学年	第2学年理型
単位数	1単位	使用教材	教科書 数研出版 新編化学 副教材 第一学習社 新課程二訂版 スクエア最新図説化学 問題集 第一学習社 新課程版セミナー化学基礎+化学		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究する力を養う。				
履修上の注意点	・持参物：教科書、問題集、資料集(デジタル) ・配布プリントは整理し、管理すること。 ・実験をした内容と、化学の基本原理・法則を関連づけて理解する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	小テスト	○			
	単元テスト		○		
	定期考査	○		○	
	振り返り・ 実験レポート		○	○	
	問題集(提出物)			○	
	各観点の割合	30%	30%	40%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1					
2					
3	物質の状態	化学 第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶 第2章 物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	計35	・固体の結晶格子の概念および結晶の構造について理解する。 ・アモルファスと結晶との違いを理解する。 ・化学基礎で扱った物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを学習する。 ・飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係を学ぶ。また、化学結合と物質の融点・沸点との関係を学習する。	知:定期考査 小テスト 思:単元テスト 振り返り 実験レポート 主:定期考査 振り返り 実験レポート 問題集(提出物)

令和6年度 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	現代高等保健・ステップアップ高校スポーツ 2023		
科目目標	① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。 ② 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身に付ける。 ③ 選択した運動種目の技術やルールなどの理解を深める。 ④ 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身に付ける。				
履修上の注意点	① 領域に応じた服装で受講する。 ② 学習ノートの提出を行う。 ③ 運動制限等がある者は別の課題を行い評価を受ける。見学する際は見学届けを記入し、提出する。 ④ 球技については、3回の選択で同一種目を選択することはできない。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	主体性			○	
	協調性			○	
	技能テスト	○			
	ルールテスト	○	○		
	実技ノート		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	A 体づくり運動	・新体力テスト	6	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す。	知・技：新体力テスト得点
		・集団行動		・集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を学び、集団が安全かつ能率的に行動する。	知・技：行動様式 ・協調性
	H 体育理論	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展		・「する、みる、支える、知る」といった生涯にわたる豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。	思：安全性 主：主体性
					実技ノート
	E 球技①	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性
	F 武道	・柔道		・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称、体力の高め方などを理解する。 ・基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。	思：ルールテスト・安全性
	G ダンス	・現代的なリズムのダンス		・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方を理解する	主：主体性・実技ノート
	から1種目選択				
2	E 球技②	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性
	から1種目選択				思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	E 球技③	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性
	から1種目選択				思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
3	C 陸上競技	・長距離走	10	・1000m～5000mを中心に取り組む。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。	知・技：技能テスト・協調性
					思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート

令和6年度 シラバス

教科名	保健体育	科目名	2年 保健	履修学年	第2学年
単位数	1 単位	使用教材	大修館 現代高等保健体育・図説・プリント		
科目目標	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できる能力を育成する。 ②健康や安全の意義を理解するとともに、生涯を通じる健康や健康を支えるについて課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。 ③心身の安全や健康に関する課題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付ける。				
履修上の注意点	① 教科書を中心に副教材を使用して、授業を展開していく。 ② タブレットを活用して授業を展開していく。 講座に関係する時事問題などをプリントし、参考資料として活用する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート・ノート			○	
	実習課題・小テスト		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	3 生涯を 通じる 健康	01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康	12	思春期における体の変化を学ぶ 性教育について考える 正しい避妊法を理解する 心身の発達と結婚生活の関係について学ぶ	各授業のワークシート 小テスト 中間 ノート提出 1 学期期末考査 期末 ノート提出
2	4 健康を 支える 環境づ くり	07 中高年期と健康 08 働くことと健康 09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と 健康 03 環境と健康にかかわる 対策 04 ごみの処理と上下水道の 整備	14	働くことの意義と健康とのかかわりにつ いて考える 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染 の発生のしくみについて理解する 環境汚染による健康被害を防ぐ方法につ いて考える	各授業のワークシート 小テスト 中間 ノート提出 環境汚染の調べ学習 レポート 2 学期期末考査 期末 ノート提出
3		05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動 07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社 会的対策 11 健康に関する環境づくり と社会参加	9	食品の安全性と健康とのかかわりにつ いて理解する 医療保険のしくみについて理解する 医薬品の正しい使用法を学ぶ 健康の保持増進のための環境づくりにつ いて考える	各授業のワークシート 小テスト 3 学期期末考査 ノート提出

令和6年度 シラバス 英語コミュニケーションⅡ 文Ⅰ・理型

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅡ	履修学年	第 2 学年
単位数	4単位	使用教材	<u>教科書</u> BIG DIPPER English Communication Ⅱ（数研出版） <u>副教材</u> BIG DIPPER English CommunicationⅡ ベーシックノート（数研出版） 英単語ターゲット（1400）旺文社 基礎を固める 英語構文ノート90（数研出版）		
科目目標	英語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 (2) 対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。また、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 (3) 事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができ、また、文章を書いて伝えることができる。				
履修上の 注意点	・予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・team-teaching(ALT)での授業発表や授業内でのペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 ・提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○	○	
	中テスト（課題考査他）	○	○		
	小テスト等		○	○	
	課題（提出物）			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	Why don't You Come to School in Pajamas? Is Seeing Believing? Do you Get Enough Sleep?	計 52	● EC I で履修した受動態、不定詞、関係代名詞、関係副詞、時制、仮定法過去について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等
2	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7	Do you Want to speak English like a Native Speaker? Universal Design: Convenient for All Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Learning from Nature	計 52	● EC I で履修した関係代名詞、関係副詞、分詞の活用、分詞構文、動名詞、不定詞について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等
3	Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	From Recycle to Upcycle Diversity at Japanese Companies Sand and Concrete: A Basis of Our Life	計 36	● EC I で履修した仮定法過去完了、時制（未来完了）、無生物主語について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等

※ 年間を通じて「読むこと」の目標として、WPM60 をクリアできるように音読課題を課す。

令和6年度 シラバス 論理表現 II 理型・文 I

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ（東京書籍） 副教材 NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ WORKBOOK（東京書籍） Listening laboratory（数研出版） Raise 3（Daichi Gakushusha） Scramble Basic（旺文社） 英語構文ノート90（数研出版）		
科目目標	話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの3つの領域を中心に、次のとおり、英語を用いた発信能力を育成することを目指す。 (1) 学習者(learner)として、情報や考え、気持ちを伝え合い、やり取りを通して必要な情報を得るために、文型や基本的な文法事項について、学習し運用することができる。 (2) 使用者(user)として、外国語としての英語を運用しようとする態度や学習習慣を身に付けて、自らの学習に反映することができる。				
履修上の注意	・ 予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・ 授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・ 授業内のペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 ・ 提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○		
	リスニングテスト等		○		
	課題提出等			○	
	小テスト等	○		○	
	中テスト、課題考査	○	○		
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	学習内容	時間数	学習目標	文法項目	評価項目
1	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	友達に報告する 日本での初登校 経験についてのスピーチ ファンレター イベントに誘う 図書館で資料さがし	計 26	訂正することができる。 心配することができる。 感謝することができる。 驚くことができる。 繰り返すことができる。 言い換えることができる。 注意を引くことができる。 同意を求めることができる。 望むことができる。 褒めることができる。 誘うことができる。 説明することができる。 聞き直すことができる。 依頼することができる。	1 年次で学習した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等
2	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	翻訳についてのスピーチ 通信販売で返品依頼 タクシーに乗る 友達とディスカッション 比較結果のプレゼンテーション 就きたい職業	計 26	要約することができる。 言い換えることができる。 困ったことを伝える・説明することができる。 控えめに依頼することができる。 依頼することができる。 提案することができる。 仮定することができる。 反対することができる。 報告することができる。 比較して説明することができる。 説明することができる。 理由を述べることができる。 仮定することができる。	1 年次で履修した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等
3	Unit 2 Lesson1 ～ Lesson 3 Lesson 4 ～ Lesson 5 Lesson 6 ～ Lesson 8	話すこと（やり取り） 話すこと（発表） 書くこと	計 18	1、2学期で学習した内容を使って英語で簡単な会話ができる。 1、2学期で学習したことを使って英語で簡単な発表ができる。 1、2学期で学習したことを使って基本的な英文を書くことができる。	1 年次で履修した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等